東洋大學新聞

発行所
東洋大学新聞学会
東京都文京区白山5
電話(946)5231内線331
直通(946)0867
振替口座 東京71741
一般購読料・年500円

サークル誌・タイプ印刷
太洋社総合印刷(株)
文京区白山4-36-18
(京華学園前)
電話(九四六)四五五九

ベトナム―沖縄―南部朝鮮

全軍労武装スト貫徹

4・15 連帯集会開く

ベトナム・インドシナ革命が、ベトナム民衆の攻勢的展開の中で前進し、アジア情勢は日一日と革命の〝赤き道〟へ歩まんとしている。幾十年に亘り、虐られた全ての被抑圧人民。彼らの解放と自由へのつきることのない希望は、ただただ自らの解放をかけた闘いへ行くことを導く。暗黒と悲劇の轍より、静かに小さな灯が近ずく時、虐られし人々は、涙を流しながら小さき銃をもち、一つの闘いに立ち上がるだろう。被抑圧人民―アジア民衆は、今一つの闘いを開始しつつある。ベトナム―沖縄―朝鮮を貫く赤い一本の糸はベトナム革命の勝利的展開を心の支えとしつつ、自らの運命を自らの手によって切り開かんとする道である。沖縄民衆自身の自治・自決へ至らんとする状況の中で、全軍労ストは武装ストとして貫徹された。

四・一五全軍労第三波スト連帯集会が十五日、東京芝23号地において約一五〇〇人を集めて午後五時半より開催された。

集会は沖縄救援センター世話人古波津氏の発言で開始され、古波津氏は「沖縄全軍労ストライキは、単なる経済闘争ではなく、明確に政治ストライキであり、復帰協を乗りこえた。全民衆的闘いとして闘い抜かれている」。ということが語られた。さらに、富村さんの裁判闘争を報告し、富村さんの実兄である富村賀吉さんを紹介し、富村さんの裁判闘争の意義を提起した。

富村賀吉さんは「沖縄民衆の怒りを日本本土とアメリカに向けて闘い抜く弟をもって誇りに思う。」と語った。そして富井さんの裁判闘争に対する全ての人々からの支援運動と具体的な闘いをすぐにでも開始してくれるようにと要請がなされた。

これに引きつづき、沖縄現地の富村さん支援運動を闘い抜いている人々から、本土を沖縄とが一体となって富村さん支援運動を展開し、富村さんを権力の手から一日も早く、奪還する闘いを闘い抜くようとのアッピールが読みあげられた。

この後、各学生団体から沖縄「返還」協定調印阻止に向けて4・28沖縄闘争を断固として闘い抜くという発言が行なわれていった。

今集会では、富村さんが唯一本土において、沖縄コザ反米暴動をうけて、沖縄民衆の闘いに連帯すべく闘い抜いている。この富村さんの闘いを支持し、沖縄「返還」協定調印阻止に向けて、4・28沖縄闘争を全大衆的に本土人民は闘い抜き、沖縄民衆の闘いに合流していかなくてはならないことが確認された。

なお、全軍労は、米軍事基地前における第三波ストを、警察機動隊、右翼、Aサイン業者の妨害をはねのけて貫徹した。そして、米軍のカービン銃に対して、機動隊の警棒とタテに対して、青年労働者は自身の手で、竹やり〝武装〟をもって対決した。

〈解説〉

相つぐ米兵による、金城さんひき逃げ事件、前原女子高生への暴行殺傷事件は、沖縄人民の、戦後二十年余に亘る米軍圧政に対する怒りに火をつけ、それはコザ暴動となって現われた。コザ暴動を、本土復帰闘争の一大メルクマールとして、ベトナム人民の反帝解放闘争の勝利的前進を心の支えとして、力ずくでも米軍事基地を撤去せんとする今日の沖縄がある。

全軍労ストに呼応する本土の闘い

無知無自覚の犯罪性を糾弾

本庄差別裁判糾弾集会

埼玉、本庄部落解放研究会は、四月十八日午後六時三十分から、埼玉県福祉センターで約百人を集めて、「本庄差別裁判・熊谷地裁糾弾、塚本青年支援、部落解放、4・18熊谷集会」を開き、塚本青年に掛けられた「業務上過失致死」という名目の国家権力の差別政策を糾弾したが、〝本庄差別裁判糾弾支持共闘会議〟の結成アピールに差別発言があることが、関東部落研連合に指摘されたため、事実上、集会宣言が行なわれないまま集会は終った。

集会では、始めに、関東部落研からの闘いの報告があり、狭山差別裁判糾弾闘争として全国部落研が行った浦和地裁占拠闘争や、差別に抗議して自殺した弓場美恵さんの存在があったにもかかわらず日本の労働者や学生は一切この闘いに応えなかったことが鋭く提起され、国家権力やブルジョアマスコミの意識的な部落に対する差別迫害のキャンペーンと同時に、日本の労働者や学生の部落に対する無自覚が、客観的に差別、迫害を増長しているという発言があった。

また関東部落研連合が、差別裁判糾弾闘争にといくむ姿勢が単に同情という範囲を出ず、逆に部落差別の現状を固定化しようとしていたということが自己批判的に提起された。

続いて本庄部落研からの基調が報告され、塚本青年に対する予断と偏見に基く差別裁判の実態が暴露された。

塚本青年は、一九六九年十月八日、国道十七号線で非常招集訓練中駐車禁止区域に停車中の自衛隊車に追突した。

だが裁判は、この自衛隊車の過失や、自衛隊の存在そのものに対する問題について一切触れることなく、また塚本青年の事故発生の重大な要因である部落出身であるがゆえに差別的にかけられた苛酷な重労働という問題に関して一切触れることなく行なわれようとしているとの発言があり、また権力が塚本青年を刑務所に送りこもうとしていること事態が差別であるとの発言があった。

また埼玉県地区反戦連絡会議から、差別を見ないということがあたかも民主主義であるという欺瞞を日々、差別の実態を知ることによって解体していくという決意表明があった。

なお塚本青年からのアピールがあり、塚本青年に加えられた日常的転就、結婚、教育等における差別が怒りを持って糾弾され、今後は狭山差別裁判糾弾斗争を真実に獄中で闘い抜いている石川青年と体となって斗い抜いていくと決意表明があった。

この集会の最後に再び関東部落研連合よりの問題提起があり、ベ平連の小田実氏等が発行している機関紙の差別性を糾弾し、また本庄差別裁判糾弾支持共闘会議の結成アピールの差別性を告発した。

この問題提起の中で明らかになった事は、日常的な行為や言語が無意識の内に差別を積み重ねているという事実であり、この様な一切の差別を日々解体していかねばならないということであった。

また部落差別との日常的な闘いを一切行わない、様々な〝革命的〟な言辞は犯罪的であるということが鋭くつき出された。

なお、流会によって確認はされなかったが、この集会において提起されたスローガンは次の通りである。

○弓場美恵さん追悼、三次高校の差別教育糾弾
○新宿騒乱差別裁判糾弾、石川青年の即時奪還を勝ち取ろう
○本庄差別裁判徹底糾弾、塚本青年支援、全ゆる差別と抑圧断固粉砕
○浦和地裁熊谷支部を包囲―糾弾せよ、4・23第二回公判闘争に決起しよう
○本庄差別裁判、熊谷地裁糾弾部落解放、塚本青年支援共闘会議を結成しよう
○部落解放、融和主義粉砕、日帝打倒

劉君ハンスト突入

政府法務省に抗議して

在日中国人青年劉道昌君は、四月二十日、東大安田講堂前で、政府法務省の彼に対する不当な在留期間短縮に抗議して、無期限ハンストに入った。

昨年の四月、何らの理由も知らされないまま、在留期間が一年から半年に短縮されたビザを渡されて以来、劉道昌君は、この一年間政府法務省に対し、在留期間をもとどおり一年にもどしてほしいという抗議と要求の運動を行なってきた。

その中で、彼は、彼自身にかけられた、この国家権力の〝お上に逆らう外国人はこうなるのだ〟という在留期間短縮が、ひいては、彼自身を含めた在日朝鮮人、中国人全体の生活権、居住権にかけられた圧迫であり、日本国家権力の姿を明確にした法務省入管局の「在日外国人には基本的人権はないし、彼らを日本国家が煮て食おうが焼いて食おうが勝手である。」に対する、七〇万在日朝鮮人、中国人の生き抜くための権利―死活―をかけた闘いであることを確認してきた。

昨年十二月、再度のビザ更新の際、彼は問題の本質を明らかにするために法務大臣に対し、在日朝鮮人、中国人に対する尾行、調査、生活圧迫、人権侵害などの不当な行為はしないでほしい、など四項目に亘る直訴状を出した。しかし、これに対しても、法務省は何らまともに答えることはせず、あげくの果ては劉君と入管局との会見の際、「戦後処理の問題は、君達在日朝鮮人、中国人の口出しすべきことではない。大体、君らは日本政府の方針にもんくを言うべきではない。」と言うに至った。

戦時中、日本軍部の三光政策によって、奪いつくされ、殺しつくされ、燃やしつくされ、縁なる国土と隣人を侵され、地獄の苦しみをなめた中国人、朝鮮人。日本内部に在っては、日本人に「チャンコロ」「センジン」と差別され、自らの生き抜く権利をもち得なかった在日朝鮮人、中国人。戦後二十五年間今日に至るまで、その姿は変わっていない。戦後、入管令行政下で、日本人に基本的人権はあって、在日朝鮮人、中国人にはなく、生き抜く権利ももたず、〝運命の星〟は、全て日本国家権力と日本人にもてあそばれている。このような現実から、劉君の抗議と要求は出された。

この日は、二年前の六九年四月二〇日、李智成が、満腔の怒りをもって、佐藤政府の入管行政に抗議して、焼身自殺した日で、劉君は二十一日のビザ期限切れを目前にして、強制収容、送還の危険を知りつつ死活をかけて闘い抜こうとしている。

この劉君の闘いに政府法務省がどういう態度に出るか、また在日朝鮮人、中国人の厳しい状況下の入管闘争―生き抜くための闘い―に日本人支援運動がどう応え得ることが出来るのか注目されている。

森評議員逝去

森 武喜氏(本学評議員)

四月十九日午前十時、昨年中より病気療養のところ逝去された。七十九歳。通夜は四月二十日午後六時~八時。告別式は二十一日午後一時~二時、自宅に於て行なわれた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

政治ストへ向け

4・28 新入生歓迎集会 営自

経営学部自治会は一六日、大講堂で「新入生 歓迎集 会」をもった。

先ず、石野田委員長から「新入生諸君が自治会運営に積極的に参加し、全ての英知と感性を帝国主義者の攻勢と対決し抜くことを要請する」との挨拶を行なった。

また、基調報告として「四・二八沖縄闘争にむけてゼネストをもって経営学部は呼応し、五月「返還」条約調印阻止にむけて闘い抜こう。また、現在、中国青年劉道昌君が現行入管令、入管行政の中で在留期間を不当にも一年から半年に短縮された。劉君の問題を在日中国人朝鮮人の問題と認識し一九日に開かれる明治公園での「四・一九学生革命一一周年記念・劉道昌君支援中央総決起集会」に抑圧民族としての日本人を認識し、われわれの入管戦線の拡大構築にむけて闘い抜こう」とのアッピールが行なわれた。

また、戸村一作三里塚芝山連合空港反対同盟委員長から「東洋大学の皆さんが、三里塚にきて、大学では学べない貴重な勉強をして下さい。三里塚農民は徹底的に闘い抜きます」とのアッピールが行なわれた。また、全学連金山委員長からのこの集会にむけたアッピールが読み上げられた。集会はインターを斉唱して終った。

朝鮮人民に呼応して

4・19 革命十一周年集会

入管体制 粉砕東京 実行委員会は、四月一九日午後六時、明治公園で『四・一九革命一一周年、朝鮮人民の反日・反米・朴三選阻止闘争断固支持、劉道昌君支援、入管法紛砕中央総決起集会』を開催した。

先ず、東京入管闘の横井勝氏から「現在、朴三選阻止を圧倒的な力で闘い抜いている朝鮮人民、あるいは軍事教練反対を、断固闘い抜いている 高麗大学を 中心とする、南部朝鮮学生の闘いの中で、我々が昨年この四・一九学生革命記念集会を開けなかった事を、厳しく自己批判を貫徹するなかで、本日のこの集会をかちとって行かなければならない。

そして、この様な情勢を十分にふまえて、ビラまき等の政治活動規制、法律一二六号に対する司法による救済の抹殺、等の政府の攻撃を排撃しなければならない。

また、政府の先取り的攻撃としなければならない。

また、政府の先取り的攻撃としてある劉道昌君の問題を、我々は本日より四・二八、五月、六月闘争へと、劉君に元通り一年の在留許可を、四項目要求貫徹、又、入管粉砕、朴三選阻止の闘いを圧倒的に押し進めて行かなければならない。」という開会宣言を行なった。

引き続き、参加各地区実行委員会政治諸団体が挨拶を行った。

そして、集会の最後に劉道昌君が、「四月二十一日より、東大安田講堂前でハンストを行い、政府からの『三年間の在留許可を与える代りに、政府に対する抗議行動を取り止めろ!』等の一切の言辞をはねのけ闘う」、との報告が行なわれた。

この後、集会は日比谷公園までの果敢なデモンストレーションに移った。

途中、青山一丁目附近に於て、突然機動隊はデモ隊に襲いかかったが、数名の負傷者を出しながらも固く団結して押し返し日比谷公園に於て各参加団体別に総括集会を開いて散会した。

なお当日は、全国反戦、各地区実行委員会の共催で行なわれ、三千人の労働者、学生、市民が参加した。

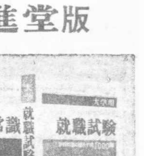
日帝のアジア再支配の先兵として

景声鶏人

僕は、この文章を青春期(何の感情もないウスッペラな言葉だが、この言葉しか今思い浮ばない)に自己の存在を燃焼し得ず退路を準備した君に送ります。▼僕は退路を準備した君をことさら責めようとは思わない。だが当初、僕が感じた不信感は、決して消えさることがないでしょう。「緊急関係を持とう」といって一人の友を駒井野に送り出した君、「総括を出せ」と僕にせまった君、それが今一体何をしているのですか。僕が君に求めたのはイデオロギーでもなければ、思想性でもなかった。なによりもまず人間としての真実が君に欲しかった。▼義理と人情が、映画の中でしか見られなくなってから久しい。僕は、義理と人情を無条件に認めようとは思わない。だが、それすら失った人間に一体何が残るのであろうか。▼二年前、二十数人居た僕の友人たちは、今一人も残っていない。僕はそれを持って僕の現存在を免罪しようとも思わないし、だから僕は確固としたイデオロギー的支持を打ち立てたとも思わない。裏を返せば、僕が最も深く状況に押し流されたと云えるかもしれない。そしてその様な批判は良く云われていた。▼だが自身の退路を準備した君たちが、この退路は新たな飛躍だとか、僕には病気の親があり家族の問題があると云った時、自分自身のあらゆる弱点を合理化しようとする姿勢をその中に見るのは、僕だけだろうか。▼君が、現に退路を準備したにもかかわらず、それを踏みこえて、多くの友が再び僕たちと共に闘い拝むこうとしている。運動にとってそれは当然のことであったかもしれない。だが僕にとっては、一人の友の退路はなによりも、自己の将来を暗示しているようで苦痛だ。▼トロツキはその遺書の中で、再び人間としてこの世界に生を受けたら、多少の誤ちを是正するにしても再び同じ途をたどるだろうと述べている。この自己の歴史に対する確信とは一体何だろうか。▼その様な事を考えるから、僕は今運動していることを君に伝えます。そして君のいつの日かの再生を期待します。そしてなによりもその時、僕も闘い続けていることを心から希望しているからです。▼安っぽい人道主義と思ったら、それでもいいが、そんな言葉でいい表わされない何かがあることを知って欲しい。そして4・28で君を見た時本当は、心から安心したこともつけ加えて置きます。退路なき闘いなんて本当はないのかもしれない。常に誰にでも退路はあります。僕にでも。

現代自動制御双書
自動制御の分野における最新成果を集大成! 既刊4冊
⑤システム工学 東工大教授 工博 寺野寿郎編
わが国独自の研究と実例を基にシステム工学の何たるかを工学的・定量的に記述。 ▼A5・二〇〇頁/二一〇〇円
新刊
電磁気学ノート 慶大教授 工博 藤田廣一著
初めて電磁気学を学ぶ人の入門書として一般理工系大学生向きに書かれたもの。 ▼A5・二〇〇頁/一〇〇〇円
電波工学 新編電気工学講座18 名工大教授・工博 阿座上孝 岡山理科大助教授 橋本礼治 共著
電波工学に関する理論の展開を、物理的な考え方をもとに記述。 ▼A5・三〇〇頁/一一二〇円
コロナ社 東京都文京区千石4 振替東京14844

就職・公務員準備書は 増進堂版
試験問題の総合研究1000題
就職試験
常識対策
■就職試験/筆記面接・作文問題,会社案内。重要事項等を網羅,就職試験のすべてがわかる 480円
■常識対策/一般常識問題と基本時事用語の解説。合否を握る常識試験対策は短期に万全 430円



上級公務員■中級公務員
精選問題と受験の手引,国家・地方公務員準備書の決定版 上級 480円/中級 470円

◇青林の優良教材と事典◇
青林講義シリーズ
法哲学講義 / 法思想史講義 / 法学講義 / 憲法講義 / 行政法講義(上・下) / 民法(総則・物権)講義 / 民法(債権)講義 / 民法(親族・相続)講義 / 商法(総則・商行為)講義 / 商法(会社)講義 / 商法(手形・小切手)講義 / 民事訴訟法講義 / 強制執行法講義 / 破産法講義 / 刑法総論講義 / 刑法各論講義 / 刑事政策講義 / 刑事訴訟法講義 / 労働法講義
国際法講義 / 国際私法講義 / 理論経済学講義 / 経済学講義 / 経済学史講義 / ケインズ経済学講義 / 近代経済学講義 / 経済政策講義 / 社会政策講義 / 財政学講義 / 金融論講義 / 日本経済論講義 / 国際経済論講義 / 農業政策講義 / 経済統計講義 / 経営学講義 / 会計学講義 / 簿記講義
〔A5判 上製本 定価一〇〇〇円~一三〇〇円前後〕
株式会社 青林書院新社
東京都文京区西片1-3-17 振替東京16920

初等情報処理講座 全6巻
林 知己夫 監修 ●B6判
1 情報処理の数学 牧野都治 650
2 統計の知識 牧野都治 650
3 情報検索入門 長沢雅男 650
4 予測の知識 仮谷太一 650
5 乱数の知識 脇本和昌 650
6 プログラミングの知識 石井 満 650
数学ライブラリー 既刊31冊 ●A5判
24 電気系の確率と統計 佐藤拓宋 850
23 テンソル解析の応用 秋山守雄 1200
22 コンパイラ 田中一他 1250
21 集合論入論 永田雅宜 800
20 リーマン幾何学入門 矢野健太郎 1000
●教養篇
7 確率と統計 梅沢敏夫 800
東京神田小川町3 森北出版 電話東京292-2601

好評理工学書目録贈呈
生化学基礎実習 医博/中山義之著 A5判 ¥750 〒70
動的生化学を学ぶ上で不可欠の基礎事項を網羅し、実習を通して学生の観察力・判断力と実験手技の向上を習得させる最新の指針!実験上の注意/基礎実験/体物質/尿成分/血液成分/酵素/代謝/栄養および報告書。
英和・和英 新化学用語辞典 改稿新版 橋本吉郎著 2万3千5百語を英和・和英に配列し訳語化学式 千五百円 〒90
化学ドイツ語新辞典 橋本吉郎著 化学および自然科学関係のドイツ語2万5千語 千五百円 〒90
化学英語の解釈研究 橋本・谷野著 化学英文に精通する例題四七一題に適切な訳解 七百円 〒70
化学ドイツ語の解釈研究 橋本・川本著 化学常用動詞ほか五三〇題 八五〇円 〒70
101 東京都千代田区神田神保町3-2 (264)5711 振替東京1065
三共出版株式会社

経済学と現実経済との架橋をなす
経済セミナー
4月号 360円
経済学学習案内―――入門書のすすめ
飯田経夫/江沢太一/尾上久雄/貝塚啓明/岸本誠二郎 加藤寛/北野熊喜男/坂下昇/杉原四郎/鈴木滝一郎/竹内啓/伊達邦春/玉野井芳郎/土屋圭造/馬場正雄/森田優三/吉田義三
公害問題と公共経済学――――根岸 隆
停滞とインフレのアメリカ経済―三木谷良一
円切上げと国民生活―――――関口末夫
財政学/藤田晴 価格理論/稲田献一
現代貿易理論/志築徹朗 金融市場の均衡分析/蠟山昌一 経済学のための数学入門/鈴木雪夫 計量経済学入門/小尾恵一郎 一般システム理論/公文俊平
農業経済学/土屋圭造
経済成長の自律と制御―――二階堂副包
再生産表式〈マルクス経済学〉竹内靖雄
国民生活財政の展開〈新連載〉――青木信治

東京都新宿区須賀町一四/振替・東京一六番 日本評論社

法学の親しみやすい導入口をなす
法学セミナー
5月号 別冊付録つき 特価380円
法学入門〈1〉―――新入生のための
座談会 池島宏幸/石部雅亮/小田中聰樹/鈴木正裕 樋口陽一/山田卓生
現代と行政法(仮題)――――高柳信一
現代国際法の諸問題―――田畑茂二郎
検察の中立性―戦後の検察の歴史 一野村二郎
私と法律学〈パネルテイスカッション〉
川島武宜先生を囲んで―潮見俊隆・利谷信義・平井宜雄
司法権独立運動の歴史 ―――根本松男
現代法概論1 現代資本主義と法 渡辺洋三
住民と国籍撰択の自由―――和田英夫
別冊付録 公害判例ハンドブック
〈執筆〉牛山積・河合研一・佐藤英善・清水誠・平野克明
騒音・振動・大気汚染・水質汚濁・日照通風妨害・地盤沈下などの公害について,これまで集積された著名判例40件を選び,適切な解説を加えたもので,巻末には係争中の公害裁判一覧,用語解説,読書案内をも収録する。

大修館書店
東京・神田錦町3-24
スタンダード佛和辞典
*最高のスタッフによる最も権威ある仏和辞典
▼スタンダード佛和と和佛が揃いました
鈴木信太郎・中平 解・渡辺一夫・朝倉季雄・齊島光一郎・武者小路実光・三宅徳嘉・松下和則・田島 宏=共著
鈴木信太郎博士をはじめ斯界の権威者が総力を結集し,企画編集に10年の歳月を要して完成した最高水準を示す近代辞典。最新の権威ある英・仏辞典を参照し新語新語義を最大限に取め,現代フランスの標準発音を表記した。収録語数70000語。

スタンダード佛和辞典 小B6判・¥1700 (革)¥2000
スタンダード和佛辞典 鈴木信太郎監修 朝倉季雄他著 ¥2500 (革)¥3000
スタンダード佛和小辞典 鈴木信太郎他著 ¥600
朝倉季雄監修
スタンダード フランス語講座 全8巻
●第一線の著者11氏による総合的な講座
発売中 第1巻 入門 朝倉季雄著 四六判 ¥550
初めてフランス語を学ぶ人を対象として、読む、書く、聞く、話す力の基礎を総合的に養う。【録音テープ❶❷ 各¥2200】
4月末刊 第4巻 会話 安田悦子 ジョルジュ・ジェラール 著 四六判 ¥550
初級文法を終えた人なら誰でも学べるよう編集したフランス語会話の入門書。【録音テープ❶❷ 各¥2200】

97

叛軍報告

叛軍闘争の現段階と我々の任務

一昨年秋、「前段階説」に対して熱烈に反論の狼煙を上げた小西三曹は、まさに「前段階」の真っ只中で「叛軍闘争」を開始した。しかし小西三曹のかかる決起はカンパニア的反戦闘争を自己の闘争圏外に放置しておくことを意味するものではない。それは同じ人民の闘いにおいてはプロレタリア階級にとって、人民への敵対的行為にほかならない。

自衛隊沖縄派兵阻止に向けて

人民と兵士の交流で兵営の壁の解体を

市ケ谷叛軍行動委員会　谷沢一

沖縄闘争論構築に向けて

沖縄その歴史と現実（I）

第一次琉球処分以前

叛軍関係書籍

明日への瞳
コンタクトレンズ
○近視見視に美しい瞳を与へ
○近視の進行を予防し
○はめはずしは簡単で
○勉学スポーツ美容に最適
○平日　午前10時―午後6時
○日曜　午後3時迄（祭日休診）
○相談無料　視明書呈要〒20円
日本コンタクトレンズ研究所
中央区銀座西3－3（金子ビル）TEL（535）3786－7

香り豊かな本場のそば
自慢の味・品本位
満寿美屋
白山上バス停前
TEL（81）七八六六
本学前　TEL（941）5214

コーヒー・ホットドック
白山上
たかぎ喫茶室
小集会に御利用下さい
電話（812）9459

制服・制帽・バッチ・カップ
旗・その他
モトハシ帽子店

資生堂チェーンストアー
白山上
高木薬局
電話（811）2064

麻雀
サービス本位の雀荘一学園より徒歩5分
学生割引　一時間　¥40―
サービスタイム　1時間　¥30―
（AM10：00～PM5：00）
冷暖房完備
クラブことぶき　仁祥寺電停前
TEL（946）8272
麻雀ことぶき

●発見するカー・セールス
たとえば、とある喫茶店――
1杯のコーヒーがうまい
カー・セールスマン
充足感と次への意欲を味わう
「心をつかむセールス」が
成果をみたあとなら、なおさら……
コーヒーがうまい
くゆらすタバコがうまい
と、一隅のテーブル
若者のグループが
クルマの話に花を咲かせている
ン!?　ヤーヤー
若者たちは気サクだ
カー・セールスマンが1人加わって
話の輪はまた広がる
たくまずして見出すカー・セールス
（実に、これがあるからよい）
うなずく《千代田日産》マン
コーヒーと若者とクルマと……
NISSAN 千代田日産モーター株式会社
●私たちの広告となって活躍しませんか。お問い合わせは、最寄販売店様までご連絡ください。
東京都豊島区巣鴨4-31-8 〒170 ℡（03）918-1251

新入生からの投書

新鮮な感性からの発言

新入生を迎えて、東洋大学も一段と活気づいてきたこの頃である。そこで、今回は、新入生からの投書として、五人の男女の意見や問題提起をうけることにした。激動する七〇年代の中で、彼らの見てきたもの、聞いてきたものなどからの彼ら新入生のナマの声である。昨年の暮れから今年にかけての三里塚闘争、沖縄闘争、狭山差別裁判を見てきた彼らの疑問は多く、政治への関心も多分に存在している。めざましい動きをみせる世界情勢を受けて動揺する政治の亀裂を彼らの素直な感性は決して見逃していない

この現在社会へのさまざまな彼らの疑問、提起に対し、われわれも共に再度とらえなおす必要があろう。第二期収用に向う三里塚五月沖縄「返還」協定調印と打ち続く一連の闘いを彼らは真剣に素直に見つめ、自己の問題としてとらえかえそうとしている。この姿勢を失ってはならないであろう。新入生の新鮮な投書の中から、再度、社会を、そして自分を真摯に見つめとらえかえす必要があるであろう。それは、とりもなおさず、われわれがいかに生きるべきかを、真実を追求せんとする端緒的段階である。

生協設立運動に参加しよう

市川藤雄（社1）

苛酷な受験地獄から九死に一生を得て、ここ東洋大学の学生となった今日、エンマ大王の手先であった反動教師の青鬼や赤鬼から逃れて地上に出たまでは良いが、地上も公害や交通事故で騒しく生きているここちがしない。入学式以来二週間を迎えたが、履修要綱の複雑さ、大教室でのマイク講義小教室のスシ詰授業、等の学習環境の不慣れあるいは不備をすでに肌で感じているだろう。地方出身者にとれば、物価高騰、空気の汚れ、交通事故の続発、通学の困難どれをとっても東京の生活はまさしく「煉獄」の世界であろう。

今後数ケ年の学生生活を送る、ここ東洋大学にも私たちの不満が沢山あります。正確には、学習、研究、サークル活動を行なう日々の生活過程で、様々な不満を持とうとしています。だが、単に未来形でなく現在的にも、大小様々な問題をサークルの先輩ないしはヘルメット姿の先輩から提起されています。その一つに、主に経済生活の問題を取上げている集団が存在します。それは、他ならぬ「東洋大学生協設立準備会」の先輩方です。

私たちの東洋大学では、過去十カ年から「生協設立」を望む声が出ていました。けれども、設立運動の担い手が一般学生と充分に依拠できず、常に学校側の反対にあたっては失敗していました。少数人間にヤル気が起こっても大勢の人間が協力しなければ、何事も成功はありえません。今ここで、私たちの多くが生協設立に参加すれば、必ずや 実現される と思います。

考えてみると、食堂のカツライス百円の原価は約五十二円、同じくポークカレー百円が四十円、メンチカツ八十円が四十五円、Bランチ百円が五十四円という状態です。もし生協の食堂にすれば、原価に近い安さでおいしく食べられます。文房具・書籍なども、生協で安く手に入れる事ができます。先日即売された「COIOP」のノートは、市販品に比べて質・量において決っして劣らないでしょう。テキスト購入でおわかりでしょうが、専門書・辞典類は非常に高額です。ところが、これも生協の書籍部では、大量一括購入によって安価になります。このように生協が設立されると、いかに私たちの生活が豊かになるか理解できます。

しかしながら、問題は、未だ生協が設立される気配が少ないという点です。準備会の内部的未熟と各学部自治の協力不十分が原因だと思います。昨年九月に、準備会は各学部自治会や新聞学会に協力要請を行ないました。社会学部自治会のように積極的に支援決議を総会にまで持ち込んだものの、ストライキや白山祭で追われて受けて立つ事ができませんでした。経営学部でも同様に、生協設立の係を設けたが協力できなかった。他の自治会はどうであったかわかりませんが、今年の方針に各学部自治会は「生協設立」を組込むものと思われます。社会と経営の自治会役員の先輩に聞いたところ、五月の役員改選で必ず引継がせるそうです。私たちもクラスでの代表役員選出の際には、必ず「生協設立」を確約させましょう。

ところで、準備会の態度も戒めなければなりません。一度や二度の要請では、説明が行届くはずがなく自治会の協力は得られないでしょう。私たちに対しても、生協設立後の食堂や文房具屋のおばさんたちへの善後策を具体的に提示して欲しいと思う。準備会のパンフレットを見ると、全て「生協の歴史」とかアンケートによる「現状」で終っています。全学生に詳細な具体策と生協設立の本質的趣旨などを公表しなければ、十年前からの設立運動の歴史に再度傷を残してしまいます。

そこで新入生の私たちは、自治会、準備会の先輩方に積極的な協力をしなければなりません。ヤル気のある連中に任せきりでは、ある政治団体の温床となる危険性が十分にあります。私たち新入生を含めた「全学生総意の生協」でなければ、設立が達成できなかったり設立後の運営にトラブルを生じる結果となります。ですから、私たちはクラスのダベリングから自治会の総会に至るまで全学生の話し合いを通して「私たちの生協」を構想しましょう。そして、自らの生活を自らの手で守る「生協」の設立運動に参加しよう。

追記　生協のパンフは三号館二階の準備室でどうぞ

三里塚とその外界

近藤裕治（文1）

二月の末から三月中旬まで権力の圧倒的な物量と狂気とも思えるような弾圧のもとに三里塚第1次強制収用が強行されたけれども、そのような権力の力をもってしても彼ら反対同盟を屈服させることはできなかった。

この間、テレビ・ラジオ・新聞など、あらゆる報道機関は権力と反対同盟及び革命的左翼の攻防を全国に報道した。そして全国の多くの人々がそれらの報道を通して三里塚に注目していた。しかし、それら注目していた人々の一体幾人の人が三里塚の問題を自分の問題としてとらえていただろうか。たしかに報道を見て、または闘いて人々は農民の姿に共鳴し、感動をし、または少年行動隊を見て同情し、「何もあそこまでしなくてもいいのに」と思ったことだろう。しかしそのような人々にとって成田空港問題とは、反対同盟の農民は、少年行動隊は一体何だったのだろう。現在同じ日本という国に住み、同じ時代に生きていながら片方では命をかけた闘いを展開している人々がいれば、また一方において歌をうたい、おどりをおどり、また、レジャーを楽しみ太平ムードを満喫している人もいる。たとえこれほどに違わなくても報道を通じて同情している人も農民とは同じ人間でありながら生きている世界が違うのである。この違いは単に農民に限られたものではなく、たとえば 在日朝鮮人、中国人において、また沖縄の人々も、同情している人とは生きている世界が違うのであろう。その違いは簡単にいうならば闘う世界に住む人間と見る世界に住む人間の違いであろう。

そしてその世界の境界には川があるのかもしれない。しかし、その川はこえようと思ったならば誰でも簡単にこえられるのである。しかし見ている側の人は、その川をこえようとはしない。少なくとも現在は。そのような光景をあの三里塚の強制収用の時にはっきりとぼくは見たのである。そしてその時に、見ている側にあって何か場違いのような困惑とはがゆさを感じている自分を見たのである。ぼくは新入生。あの時ぼくは入学試験を受けていた。もちろんぼくは農民と共に闘わなかったことを入試によって言いわけしょうとしているのではない。ただぼくは見ている側にいたということで同じ見ている側の隣の人をも見ることができたということ、そして自分が見ているということで現在の社会では闘う人間と見ている人間がまだいるということをはっきりと知らされた。そしてこんなことはもう知っていたことだけど、見ている人間というのは常に文化人のような お顔を して、きれいごとをならべ、苦しみをさけて生きているということをあらためて知りました。

少年行動隊を見て「まあ、かわいそう。せめて子供だけはあんなことにまきこまないでほしいですね」などといっているのである。そしてそういう人は万一、成田空港ができたとしたらジャンボとかいう飛行機に乗って、「新しい空港ができてよかったですね。」などというにきまっている。（しかし彼らはこのような事はいえないだろう。なぜなら空港はできないから！）実際現在の日本ではまだこのような人間・すなわち見ている人間が多い。さらには、三里塚のような闘いを正確につたえる報道がない（少なくても一般報道機関には）現在、報道というものの重要性をあの三里塚闘争を、見ている側の人として、痛感したものであります。

小さな"闘い"の火を

篠原麻衣子（短1）

最初に告白するが、私は、現在の社会情勢についての明確な知識は皆無である。いやほんの少しは社会を見つめる目を持っているために、なおさら自分の殻の中で困惑しているといった方が良いかもしれない。自分と結びつかない論理が先走りしている。"自己嫌悪"は私の持病である。

今年もまた「4・28沖縄デー」がやって来た。私は4・28や10・21等の季節になると、また血気盛んな、我が同胞（除自分）諸君が行動を起し始めるのか、とふくみ笑いをしながらあれやこれやと頭の中に思いをめぐらすのである。

学生運動は、ここ数年「大学の民主化」「マスプロ 教育への反発」など一連の大学問題についての紛争で世間の注目を集めたが、現在は 新左翼の中心的存在 として、沖縄、三里塚等の社会問題に比重が移行した。

問題を提起し、闘争を起したのは少数の活動家といわれる学生達であった。しかし、現状は多くの学生達によって、根強く闘争が継続されているのである。すべての既成の権威が否定され、崩壊してゆく混迷の中で、次の世代を担う我々は自分自身に突きつけられた問題として、現状を把握し誠実に考えなければならないのではないのか。

先に、「ふくみ笑いを しながら」と書いたが、学生運動を批判してのことではない。しかし、私が言いたいのは、「"政界の欺瞞的態度に憤慨し、日本帝国主義を崩壊せしめん"とする多くの闘争を経た。活動家諸君は本当に自分の頭で、あらゆることを考え尽くして決断したのか。」ということである。他人からの借り物でもなく、受け売りでもない自分の、自分だけの考えで動いているのだろうか？情報化時代といわれる現代に於いては、ともするとマスコミや他人の思想に左右されがちである。その情報の渦の中にあって、自分自身を押し殺すことなく、自分自身で思想を確立させたのだろうか？否、そうだとしても彼らはその行動に、そしてまた自分自身に対して責任をとれるのであろうか？

自分の思想が弱体のまま行動することは、大きな危険が伴なうものである。

また彼らは、転向したり、一生挫折したりすることなく自らの使命として闘い続けていけるのだろうか？年の甲を夢にかける大人達の間には、「どうせ若いうちさ」という会話がなされる。それを真向から否定し、その決断と行動を単に若気の至りや欲求不満の代償、青春期における一時の感情ではなくして、一生闘い続けていけるのだろうか？

これが、人生の日なたばかり歩いてきた女が、以前から胸に抱き続けてきた素朴な疑問である。

今年も「4・28沖縄デー」がやってきた。去年の「4・28沖縄デー」を顧みると、運動自体、量的な高揚とは逆に、沖縄デーを手段とした各セクトの理論が先行する闘いのような気がする。「本当に沖縄のことを考えているのか！」

今、活動を続け「4・28沖縄デーを勝ちとらん」とする、多くの活動家諸君！私の疑問に答えてほしい！そして、一生挫折することなく、真の民主主義国家建設のため、闘い続けてほしい。

たとえ、今すぐ彼らの思想が私に理解されたと感じても、判断はあくまで私自身のものにすぎないのである。

私は、私なりに心に小さな"闘い"の火をともそう！

実際から出発しよう

槙かほる（社1）

私はあの広々とした赤土の海の中に、ポツン、ポツンと小屋が立ち、赤い旗の翻るのを見て、常時も何やら熱いものが湧き上るのを覚える。それは、大海原を航海する者に、小島が与える勇気にも似ているかも知れない。また、砂漠の旅人に安らぎを与えるオアシスに似ているのかも知れない。

私は東京で集めた救援物資を運びに行くと、必ずと言って良い程「三里塚はどうだい。」と人に聞かれる。私は彼等の質問の意味が判らない訳では無いが、誠に要領を得ない答えを返すことしか出来ない。「スゲェよ、とにかく君も一度行って見るべきだよ。」こんな恥しい返事をしながらも、三里塚から帰って来てはまた、救援物資の手配をさも忙しそうにするのである。

一九六〇年、安保成立と同時に池田内閣の発表した、高度経済成長にマッチした農業基本法の構想に出発する日本農民の分断策動が着々と進められるなかで、三里塚農民は、砂川、北富士の人々と固く結び付き、日、米帝国主義へ直接的攻撃をかけるようになっている今、それはもはや、私のような一夜の宴、プレハブではなく、常設の建てものであり、接する人々に、権威、威厳すら与える。

私の、あるいは私達の目指すものはこのようなものであり、決して砂上の楼閣ではない。

三里塚の 人々の闘いは 文字通り、土に根を張った闘いである。それ故、私は得てして見失いがちな自らの立場、実際を、今ここに見い出して行かなければ、三里塚農民との連帯などと語ることは、一切出来ないのでは ないだろうか。僅かのアルバイトの経験などによって、あたかも労働者の生活が判り、彼等を理解しているようにしたり顔で語るのは、珍奇である以上に犯罪的でありさえする。

私はどう振るまった所で、一東洋大学学生であり、そして、それでしかない。私はここから出発しなければならない。

そのことが、決して全体情況をアブストラクションすることではない、と言うこと、そして全ての抑圧、支配の根は必ずに一本の幹に通じていることを信じて行くしかない。そうでなければ、三里塚の人々が常時も言ってくれる「御苦労様です。東京も大変でしょう、頑張って下さい。」と言う言葉の、本当の意味を知ることが出来ずに終ってしまうだろう。

「連帯のない救援はない」と言う以上、私は「いい若い者が救援会なんかにいて」と言われて動揺し消耗してしまった私の鋭さを、生活基盤の上での闘いで克服して行くしかないと思う。そして私自身が、救援される位の闘いを行って行かなければ、連帯もなく全闘いの一翼を担う程の救援活動というものは及びもつかないのではないか、等と考えている今日近頃である。

狭山差別裁判に思う

下平和子（社1）

Kさん、あなたは強い悲しみにおそわれた顔を身近かに見たことがありますか、あの有名な彫刻の「カレーの市民」のように深い悲しみの顔を、きっと身近に感じた事はないでしょう、自己をも主張できないため蒼白の顔をもつ人があなたの身近に立っている事を知っていただきたい、人間すべて多かれ少かれ良心や正義感をもっているとわたしは信じます。彼は、特にそのことを強く信じているにちがいありません、でなければ彼は、あんなに強く戦う事はできません、彼は狭山差別裁判における作られた犯人になった石川一君です。世の中の醜い側面を若い私達は鋭い、公平な目で見る事ができます、数限りない矛盾を考えない物質的な物で幅をきかしている多くの大人たちに、若い私達は、その世俗的なものにつながれていないため、より敏感に感じ、勇気を持って意志表示をすることができます。だから青春は常に孤独で、きびしいものでしょう。若い私達には秩序や規範、習慣は意味をもちません、深い思考と鋭い感受性を基準にすればいいのです。まちがいと欺瞞に満ちた世の中は、若者の手によってのみ変えることができるのです。だから、良識ある人々はいつまでも若者であることを願うのでしょう。この重大な事件において同情は必要ないと言われました。わたしの最初は同情に発っしていますが、事件そのものは同情的には見ていません。真実を知り、決して許すことのできない利己的な狭い考えを持つ多くの大人たちに強い憤りを感じています。あなたの若さを信じて訴えます。保守的で利己的な権力が一人の生命、生活を奪い、苦しみを堪え難くしている、事実は事実に他ならないという単純な理屈さえわからない多くの大人たちに強い良心を求めます。物事を最終決定するのはその人の良心ではないでしょうか？この、道理のない狭山裁判においても、各人の良心が求められているのです。

再びKさんへ

私は今まで聞いた中で一番感動し、その人自身の心がまさにその言葉となって表われていると思われた演説を聞きました。石川青年と同様、本庄差別裁判の塚本さんも知ってもらいたい、塚本さんはごく幼い時から、差別をしいられどんな苦しい道を歩んできたかを語ってくれた。現代、当然この平等をさけぶ世の中において、語られることはならない「差別」をなくす為共に戦うことを訴えた。彼のたどる道、過去の苦しみの道は、「運命」という観念的な言葉では、代弁できない、わたしは「平等」という言葉を聞くと、俗にいう知識人が頭で考えたものにすぎない気がする。この二青年の他、何万人という人々が、絶えることない不当な差別に苦しんでいるのです。Kさん、部落という、権力によって作られた、この言葉が、聞かれなくなる日まで、共に戦うことをちかい あいたいと 思います。

4・19集会へのアッピール

在日中国人青年共闘会議

本日の四・一九集会に結集された日本の労働者、学生、市民の諸君！

我々、在日中国人青年の一員である劉道昌は、四月二一日の入管当局の出頭通知の期間切れを前にして明日から東大安田講堂前でハンガーストライキに突入することを決定した。

諸君！劉道昌は何に対して闘っているのか？日本政府ー入管当局が劉道昌の過去の反入管体制の闘いと反蔣介石売国奴集団の闘いを口実として在留期間を一年から半年に短縮してきたことに対して、理由も明らかにせずに命を切り縮めてきたことに対して闘っている。

公安、外事を先頭とする官憲は四六時中劉道昌を追い回し、つけまわし、周囲を嗅ぎ回っている。

劉道昌は、自らの基本的人権を脅かされるのに対して闘っているのみならず、七〇万人の在日中国人、朝鮮人を犯罪人扱いにする日本政府の暴虐に対しても闘っている。

日本政府入管当局は、劉道昌が、同化抑圧、分断、追放に対して闘えば、在留期間を一年から半年に短縮するというムチの政策でもって臨んできたが同時に、今回おとなしくしていれば、三年まで在留期間をのばしてもよいというアメの政策で劉道昌を懐柔しようとしている。

劉道昌が、蔣介石売国奴集団に対して闘うこと、これは台湾海峡による分断を認めない我々在日中国人、帝国主義者共による中国分割を認めない我々在日中国人にとって、又二つの中国を認めない我々在日中国人にとって全く正当な事ではないか。

台湾海峡による分断を、そのまま在日中国人に持ち込む出入国管理体制に対して闘うことは、同化を拒否し、分断を拒絶する我々在日中国人にとって全く正当な権利ではないのか。

蔣介石に反対し、入管体制に反対して闘うことは、我々在日中国人にとって正当な権利ではないか。

人間は誰でも、侵略の事実を知りつつも、それを見のがす時、権力が自分を侵略するのを許しているのだ、なおさら、権力の侵略に対して先ずもって思想的に武装解除しているのだということを知らねばならない。

我々在日中国人が、権力からの同化、抑圧、分断、追放を見のがす時、我々はもはや我々自身ではない、人間ではない奴隷の境遇に落ちるのだ。

権力は、我々が人間でなく、権力の奴隷となるように我々を堕落させることを最大の楽しみにすべくアメの政策を我々の目の前で振り回しているではないか。

我々在日中国人は、権力が在日朝鮮人を一月十六日の協定永住権申請により、三八度線によって分断、支配していることを知っている。

在日アジア人を奴隷化して、三八度線を組織、地域末端、家庭の中に持ちこみ生活と思想を破壊し、ポツダム政令一二六号を抹殺することによって旧日本帝国の支配下の在日アジア人に対する侵略の事実すら抹殺しようとしている。

四・一九集会に結集した諸君！

君達は闘える。

朴三選阻止を目指して、朝鮮の学生、労働者、市民が闘いの雄叫びをあげているのを帝国主義者の侵略に抗して、

四・一九集会に結集された日本の労働者、学生、市民の諸君！

君達には聞えるはずではないか。

君達の側にいる在日朝鮮人が日夜、入管体制の下で叫んでいるのを！

このことを、我々の中の全ての者は知る必要がある！

在日中国人、在日朝鮮人に見える三八度線台湾海峡による分断を、諸君は地区で入管体制下の具体的矛盾の中に見る必要がある。

入管体制が日本帝国主義者の七〇年代対アジア戦略であるならば、我々の反入管戦線の構築は過程と段階・過渡期による制約を踏まえて日朝中の共闘闘争の漸進的前進を統一戦線問題を抱えつつ、思想⇄組織のサイクルを回しつつ、中核部分の構築を条件とし、持久戦の陣型でもって、侵略戦争に対決する戦士の団結の質の獲得を我々の一人一人に問うているのではないか。

非階級的民族責任の思想の階級的立脚点が帝国主義者に寄生する市民層であることも、或いは、情勢の進展、闘争の進展が具体的矛盾の追求する時、民族問題の一般的位置付けが破産することも、我々は、自らの手で確かめ、目で見、全身で感じるであろう。その時こそ我々が闘争の必然性の優位性を承認し、個別反入管闘争の戦略を純化することが綱領の核心となるであろう。

その時こそ、反入管闘争のイデオロギーは闘争形態ー組織形態と相互影響させどのようにして、どこに、不抜の部隊を見出すかを我々に教えるであろう。

今こそ、我々は何故に七〇年春に入管法案粉砕から入管体制粉砕へと、スローガンを飛躍させ、地区実構築から始めたかを、再度問い返してみる必要があるであろう。

劉道昌の闘いの尖鋭さが、アジアの民族解放闘争の銃声と韓国学生の雄叫びとこれに向き合う日帝の階級的憎しみが、激突するが故であるならば、我々は日帝に対する憎しみをもって銃声と雄叫びに応えねばならないであろう。

過去、法案が流れることによって東実が崩壊した痛苦をかみしめるならば、法案が通過する事態が刻々と迫りつつある現在、我々は何をもって、これに応えようというのか？

この課題をば、劉道昌の一命をかけた闘争に断固応え切る中から創出しようではないか！

アジア民族解放闘争の気迫と息吹きを全身に受け止めて、一歩、大きく前進しようではないか！

劉道昌に一年の在留許可を闘い取れ！

在日中国人青年共闘会議

論説

沖縄「返還」協定調印阻止に向けて組織せよ

＜I＞

一九七一年二月のアメリカ合衆国軍隊と南ベトナム政府軍が一体となったラオス侵攻作戦はニクソンドクトリンといわれる、ベトナム化政策の根底的破産を宣したばかりでなく、最早、アメリカ帝国主義がどの様な途をとろうとも、ベトナムーインドシナ三国人民の民族的闘争は、絶対に敗北することはないことを全世界に再び鮮明にした。この事実は何よりも植民地民衆の解放闘争の全世界的優位性を明らかにし、更にこの闘いが全世界に発展することを公然と主張した。

とりわけ、この極東の地に於いて現在闘われつつある、朝鮮南半部民衆の朴三選阻止、反米、反日、統一朝鮮を希求する闘い、また沖縄民衆の反米軍基地撤去解体の闘いの中にベトナムーインドシナ労農民衆の闘いが、深く物質化し、意識化していることを見抜かねばならない。

日本労農民衆は、今、全世界がとりわけ、戦後アジアがこのベトナム南部朝鮮ー沖縄をつらぬく植民地民衆の解放闘争によって大きく解体しつつある中で、四・二八沖縄闘争を向えようとしている。我々はまずこの崩壊せんとする戦後アジアを、その歴史的にも新たな地平を幾度となく強調し確認しなければならない。

＜II＞

いうまでもなく、コザ反米暴動以降の沖縄の状勢は、第一波から第三波の全軍労のストライキにも表された様に、米軍基地権力と沖縄労農民衆の実力的対決を基軸として、戦後二十五年間の本土復帰闘争の主軸であった、復帰協既成指導部の闘争秩序を突破し、暴力的、組織的に闘われようとしている。これは全軍労第二波~第三波ストの局面に象徴的に現われた。第二ゲートのピケをめぐる全軍労青年部と武装米兵の武装対時関係こそがなによりも現在の沖縄を象徴していることを見抜かねばならない。

このきわめて先鋭な沖縄本土復帰闘争に対して、現在日米両帝国主義は、七十二年沖縄「返還」協定調印を早め、ありとあらゆる沖縄民衆の闘いを圧殺し解体しようとしている。全軍労働者に云わせしめるまでもなく米軍の基地従業員合理化は、基地の縮小でもなく"基地の強化であり、本土政府の沖縄への介入は、米軍基地機能の強化ー維持である"ことは再三再四確認され続けてきた。この日米両帝国主義の政府に対して、二十五年間闘い続けてきて、現在も闘い続けんとする沖縄民衆に対して、本土民衆はいかに闘っていくのかがこの「返還」協定調印をひかえた四・二八沖縄闘争の具体的任務でなければならない。

＜III＞

いうまでもなく、日本本土の急進的大衆闘争は、六十九年の十・十一月決戦以降決定的に解体しつくされ、全国全共闘の解散云々がまた組織的な改編が「ソビィエト運動」とか「軍事の問題」として提起されている。

だが過去の闘いの一切の清算し抜こうとする部分や、形態の問題としてこの状況を乗り切ろうとする部分を問題外とするならば一体何が今本土沖縄闘争として問われているのか！

単独で米軍事基地に挑戦し解体しようとする沖縄民衆の闘いを防止し、コザ反米暴動によって切り抜かれた新たな戦略的地平を防衛し抜き、かつ本土政府によってかけられる、沖縄民衆に対する一切の攻撃を粉砕しきることなくして、沖縄闘争はないし、全国全共闘の強化は、本土急進的大衆闘争の再建は一切あり得ぬことを確認しなければならない。

このことを掛して四・二八沖縄闘争は闘いぬかれねばならない。あくまでも沖縄労農民衆の一切の諸要求の下に日米両帝国主義を屈服させなければならない。

東洋大学に於いても、六十九年十・十一月決戦以降の急進的な闘争の一応のサイクルが終了し、現在、少数の部分によって沖縄闘争が、闘い抜かれようとしている。だがこの歴史的に重大な任務を持つ本土沖縄闘争は、決してこの少数の部分によって闘うことは絶対に不可能である。とりわけ新入生を迎え、未だ政治的経験を持たず、しかしながら先鋭な問題意識を持ち続けようとする部分の存在を見るならば、政治的な全学的な闘争の結集軸を構築することが早急の課題として存在していることを確認しなければならない。

劉君支援でハンスト

法自中心に

四月二十四日より法学部自治会の学生を中心とする、劉道昌君支援のハンガーストライキが、五号館前に於て行なわれた。

劉道昌君の現在的事情、闘いは多数の人々に知られている、中心がメンバーの一人は「我々日本人は百年の歴史が全く侵略の歴史に外ならない事を知るべきである。その観点の上で、我々は二度ならずも三度も劉君に半年ビザの受け入れを、結果的に強要してしまった事を、痛切に自己批判するなかで劉君の闘いが文字通り生命を賭した闘いである以上我々も、生命を賭して闘うべきであると思う。そして、より多くの日本人に現在的情況を知らせる事が必要だと思いこのハンストを決行した。」と語っていた。

現在、入管闘争が劉君への弾圧を始め、増々厳しくなる情況のなかで、本学内に於てこのような、劉君の闘いの質を少しでも同一化しようとする闘いが展開されるようになった。二十八日現在、ハンスト五日を経るなかで！

映画「水俣」上映

―患者さんとその世界―

日時　5月12・日　PM 1時．PM 6時

於　大講堂　入場料　二百円

主催　自主上映実行委員会

新編集局員を募集します

本紙では学生新聞を編集し、現在への鋭い批判の武器をみがかんとする君を求めています。

東洋大学新聞学会　白山本局 946―0867　川越支局 0492―31―0811

スピーディな《ノック式》

万年筆はキャップレスの時代！

ノックするだけですぐ書きだせる　キャップのない万年筆《キャップレス》です

スピーディなノック式でビジネスも勉強もスマートにテキパキと…

←世界の文字を書く

パイロット　キャップレス

●スペアーインキ6本つき

●英・米・仏・西独・伊・スイス・ブラジル　インド・オーストラリアにも特許出願中

あなたの若さと力に期待！

■東海道新幹線にも，原子力発電所にも，当社製品がユニークな機能を誇っています。独自の道を歩む比類ない電機・造機メーカーとして，あなたの最高の活躍の場となる企業　──それが当社です。

■職務給による近代的給与体系です。

初任本給 22,400円（技術職・販売職）

製造品目

電車線金具・鉄道車両用部品・レールボンド

火力発電所用管系支持装置・送電線用金具

一般電気部品・船舶用鋳物・艤装用品

アルミニウム鋳物・鋼鋳物・銅合金鋳物

入社ご希望のかたは本社にお問い合わせください。

基幹産業をささえる

三和鉄軌工業株式会社

資本金1億円　創業1907年

■本社　東京都品川区南品川5－58　電話 東京491局5111(代)・2118(代)

■出張所　大阪・福岡・名古屋・札幌　仙台・長崎・広島・新潟

朴三選反対で学生が決起

4・19学生革命の精神を継承

ヴェトナム・インドシナ人民の民族解放闘争の巨大な進撃の波を受けて、南部朝鮮人民の「単一の祖国・民族形成」への闘いは、4月26日の朴三選阻止闘争へと怒濤の如く攻せ登りつつある。

それは、昨年十一月、日帝の植民地経済支配の全面的破綻と強制的労働・飢餓賃金に対し〝焼身自殺をもって抗議していった、金泰壱氏を先頭に開始された、ソウル労働者の決起。そして、この労働者の圧倒的決起に合流する4・19学生革命以来の学生運動の新展開。今まで米軍に直接的闘いをもったことがなかった南部朝鮮人民の反米人闘争。さらには朝鮮知識人の朴三選阻止への闘い。この四つの具体的かつ圧倒的戦線が、文字どおり、一体となって4月26日の朴三選阻止へと闘い抜かれている。

このような中で、朴は、69年秋の三選を許す改悪と同時に〝実質的な朴大統領三選体制固めに奔走し、学生運動、言論活動、労働運動の三つを中心に、強権的な弾圧下に入っていった。このような朴の軍事独裁体制は、米・日・朴との一体となった、ヴェトナム・インドシナ人民の武装解放闘争が切り拓いたアジア革命への反革命軍事体制に他ならない。

そして、今年に入り〝朴政権はますます朴三選確立へ向けてあらゆる不正を行なっている。1月27日には、新民党大統領候補金大中氏宅へ爆発物を投げ込み、謀略を企てている〟さらに、朴政権に対するいっさいの批判に対し〝言論、出版への弾圧の強化を激化、統制している。

また、1月14日には、大邱高裁管轄下の百余名の判事が「権力からの独立」「事件請負い排除」などのスローガンを掲げて司法界整風運動が火ぶたを切り、〝反朴〟闘争が広がり、全国的に波及しつつある。

さらに、朴による外貨導入政策の破綻が引き起こした恒常的インフレーションは、南部朝鮮勤労者の過半数67％が毎月〝赤字〟家計にあえいでおり、労働条件の悪さと低賃金の中で苛酷な生活が朴政権により統制されている。

このような中で、2月2日にはソウル青年労働者が焼身抗議自殺未遂を行っている。4千5百ウォンの給料で18時間の労働に耐えかね、相ついで焼身抗議自殺未遂行っている。

また、日本興業、富士、三菱、第一、日本長期信用、東京、日本勧業の7個銀行が借款団を構成し、借款額は6千万ドル（期間6年、金利ユーロダラー金利プラス1・5％）を決定し、文字通り朴政権再度の確立に向けての選挙資金源にあてがわれている。

しかしながら、このような朴の不正選挙策動には、高校生が「我々は2・28精神をうけつぎ正義をたすけ、不義を糾弾する」「我々は学園の自主精神を尊重し、いかなる形態であれ、これを侵害される時には糾弾する。」など6項目の決議文を採択するなど、朴3選阻止への闘いはあらゆる所で行われている。

とりわけ、四月に入り、学生の軍事教練反対の闘いは、ますます高揚するばかりである。学生達の当初のスローガンは「学園を兵営化するな」「正しい言論の姿勢にかえれ」などから「不正選挙阻止」「情報政治撤廃」へとスローガン自体もエスカレートしている。また、ソウルの私立高麗大延世大、国立ソウル大などを中心に連日200名以上を動員してのデモが行なわれている。

このように二月二十五日に始まった軍事教練反対の学生の闘いは、今や地方にまで拡大し、朴はその波状的学生の激しいデモの弾圧に、機動隊を用意し、催涙弾と警棒でデモ制圧に乗り出してきているのである。

が、この学生の決起は十九日、学生革命十一周年の日、ソウルの私立高麗大、延世大など各大学、地方の大学の各々、二千名以上を決起させ、機動隊と激しい攻防戦を展開している。

まさに、南部朝鮮民衆は、文字どおり、朴三選阻止から「単一の祖国、民族形成」に向けて日に白熱化しつつあるのである。4月26日を頂点として、朝鮮半島は激動の時期を迎えようとしている。

書評　狂おしい程の〝生〟への希求

「無知の涙」永山則夫・著

〝永山〟をみつめる無表情な我々を裁け

永山則夫は△

昭和四十三年、横須賀の米軍キャンプからピストルを手に入れ、十月十日から、東京、京都、北海道、名古屋で連続射殺事件を起こした容疑者として、現在、東京拘置所に未決囚として在監している。「無知の涙」と題する獄中ノートは、彼の思考過程の所産の全てである。

〈無知の涙〉

独りで誕まれて来たのであり
独りで育って来たのであり
独りでこの事件をやったのであり
とある日、独りで死んで逝くのだ
そこには他との関係は一切れも存在しない
まるで路傍の小石のように
雪降れば冬を知り
若草見つければ春を知り
蝉鳴くを聴けば夏を知り
赤とんぼと含写であそべば秋を知る
が、ここには肉体の歴史はない
隠すのが運命で逝く者の精一杯の願いだ
知ったとき確実な運命が以前にあり
それを語り残す友もない
無知が現在の自己に変えた
無知である時期の涙が
が、これは無知の涙ではない
この涙は普通の涙だ
潤んでいる、でも、頬にはおとさない
ここではおとしてはならん
求めるものはこんなに安っぽくない筈だ
涙が頬にかかるとき
それは無知の涙ではない
涙せる日を憧憬し、存在を頂く
もっと華麗のなかに……
無知の涙とは悠久の果てにも無いかも知れない
でも、それが頬にかかるとき
私のその涙は無知ではなくなる

彼は昭和四十五年六月末の第十一回公判廷で「貧乏物語」に収められているボンガーの次の英文個所を暗誦している。「Poverty kills the social sentiments in man, destroys in fact all relations between men. He who is abandoned by all can no longer have any feeling for those who have left him to his fate.

―貧乏は人の社会的感情を殺し人と人との間における一切の関係を破壊し去る。すべての人々によりて捨てられた人は、かかる境遇に彼を置き去りにせし人々に対してもはや何らの感情も持ち得ぬものである―（ボンガー「犯罪と経済状態」）」

「無知の涙」△△

たる獄中ノートを読む時、矛盾の蔓延する現在社会への根底からの鋭い批判が突きささるように迫ってくる。

それは、東北の片田舎で、七人もの兄弟の中で育った、寒漠とした、飢えと寒さの貧しい日々の中で養われた感覚である。ボンガーの「犯罪と経済状態」は底辺の生活を経験したものが語りうる言葉であり、彼の肉体そのものが語った言葉である。彼にとっては現在社会のピラミッド構造そのものが、単に観念の領域の中で存在するのでなく、容赦なく露骨に彼そのものへ重圧を加えてくる、その日々によって、彼の〝皮膚〟が感じたものである。飢えと寒さの中で過ごした網走での生活は、彼の思考の母胎を形成するに充分であったし、あの寒々とした、そして限りない大自然と、それにからみつき、くい入る網の目のようにはりめぐらされた資本主義の構造との矛盾が彼の体内の奥深く沈澱している。

獄中における彼は、多くの書籍に対面していく中で、現在に至る自己を対象化することを学ぶ。底辺の人間として閉ざされつづけた知性を強いられていた彼は、獄中において、感性、意識は序々に覚醒し、肥大化する知性と、あふるるばかりのすさまじいパトスを証明する。

抑圧され続け△△△

閉ざされ続けた人間の飛躍と力がどれ程、激しく強いものか！現在社会が、いかように欺瞞的言辞を並びたて、いかようにとりつくろうとも決して〝物質の運動の論理〟を陰蔽しさることはできない。陰蔽、圧殺すればする程、抑圧され続けた感性、知性の爆発は激しい。肉の中にくい込んでくる〝資本の論理〟は決して忘却できるものではない。

永山則夫は狂おしい程の〝生〟への希求で常に満ち満ちている。それは自然的と言うより、動物的とも呼べるようなものである。即ち、露骨にしかも直接的に迫りくる〝資本の論理〟のぶんだけ激しさを増してくるのである。

肉体的に△△△△

彼の全存在に刻みこまれている底辺での生活は、その見えすぎた不合理の空間で混沌と揺れ動き、飽くなき〝生〟への希求は、虚無感と、厭世感を供いつつも、直接的な破壊への衝動として登場していく。それは現在社会構造の亀裂からはみだした人間として、社会を拒絶していくのである。その行為そのものが彼の〝生〟として存在感を深めていく。

我々は疎外されつづけた人間＝永山則夫の〝生〟を明確に真実にとらえなければならない。暗黙のうちに承認しあったその「神聖」なヴェールを再度見つめてからでなくては永山則夫を理解することはできない。

彼の語りたかったことは何なのか。真実なるものは何なのか。我々自身が覚醒しなければならないのである。その腐臭を放つ自己のかいならされた感性の解放に向けて、我々自身が陰蔽されつづけられている、奥深く潜む「永山則夫」を自覚させねばならない。

そして彼をみつめる我々の無表情なその〝我々〟を裁かなければならない。（佐）

映画評論『ボクサー』監督マーチン・リットー

黒人たちは反叛するであろう

黒人はアフリカ大陸から奴隷商人によってアメリカ白人の植民となり四〇〇年間、搾取され抑圧され続けてきた。この「ボクサー」に写し出されるジャック・ジェファーソンなる黒人も自己滅却のアクションと知りながら、ボクシングの世界で栄光を得、自ら去っていくという実在の人物である。まさしく生きるために闘い、闘うために生きぬいた黒人の生活である。

画面の上を流れているテーマはボクシングを熱狂的に観賞する人々と、どうしょうもなく生きるために闘い、闘うために生きたボクサーの記録であり、黒人差別への抗議であり、キャッチフレーズに見る通り、夫婦愛の感動ドラマなのである。白人の女が献心的に黒人ボクサーにつくし、たった一人のよき理解者―でありながらも悲劇的に終ってしまう。

物語は、一九一〇年代のアメリカにおいて黒人拳闘家ジャック、ジェファーソンが白人娘エレノアとの恋愛を描き、群衆の混乱の中で、「偉大なる白人のホープ」と対戦し、世界チャンピオンとなり勝利をうけとる。シカゴでも栄光と白人の女を誇示するような生活を送ったが白人の社会は反乱の事態を招く心配をよそおい、マン法安法なるものでジャクソンに無実の罪を負わせてしまう。白人に追われる二人は彷徨し続ける。黒人の世界もまた、彼の栄光とはかけ離れた現実に住むことで、彼らを放浪の旅に向かわしせしめる。官憲は必死になり、白人のプライドを癒やす方法としての八百長試合を強いる。

平等でないのはあたりまえだ。黒人がめった打ちにされればされるほど、白人の世界の優位性を保つことになるのだ。結末にエレノアとジャクソンの夫婦喧嘩がなされる。白人と黒人の生活のお互いの理解度を知りながらも全部を破壊させてしまう。しかしエレノアの自殺によってジャクソンは八百長試合を受諾してしまった。ラストは初めて敗者となり、リングから血みどろのボクサーとして、盛者必衰の如く、敗者の階段を降りてゆくシーンである。

善悪の基準も確かなものも混沌であるかも知れない現代に、現代が生み出した科学の所為と法則性は多くの文明をもたらしたといえよう。この人間たちの世界にとって、これらの文明は誰かのもののように思われ、いつの間にか、真理に間違えられ、黒人たちへの因襲をつくり出してしまった。人はただ安らぎ、それは平和と希望を感じ取ろうとして、白人の世界と黒人の肉体的差異の保持のために黒人を抑圧してきた。それらが恐しいまでのふりかかってくる束縛であるにもかかわらず。

肉体的差異は永遠なものか

白人は黒人を牢獄にとじこめることと、全き壁をつくることによって異常な精神を構築していった。黒人たちは反逆するであろう。しかし法則、必然性を感じながらの場合が多い。ボクサー・ジャクソンは黒人たちの反逆にも反逆を示した。白人にみせる独自の制覇者の笑いを浮かばることで、壁の安堵をぶちこわそうとしたのだ。

人種間の関係は、核構造の拡大図であり、敵対する白人は父権であり、子にあたるのは黒人である。両者の肉体的差異が一方に従属たらしめることになる。ジャクソンは子供が大人に対して奴隷的な存在の立場にやりきれなかった。黒人のアンクル・トム的生き方をも否定した。

彼は戦う時、人種では戦わん、ともらす。その言葉に人種主義の屈辱を拡大したものが含まれている。特異な黒人の存在として脱皮しようとする生き方。白人の女との恋愛関係で共感、同一化を真に進める。しかし、やはり理想的な生活は営めず、二人は黒人と白人として敵対してしまったのである。

途中、白人のチャンピオンと闘い、世界選手権のベルトを勝ち取った喜びの中で、黒人たちと一緒に歌い踊っている隙中に、一人のうす汚ない黒人が登場し、ジャクソンに向って「どれくらい白くなりてえか！白くなれるか！」とどなりつける。群集の黒人たちに「お前も、お前も、自分の鼻をきらい、毛髪をきらい、皮フをきらうとは―。」怒ったまま、その場を去っていくこの男は、権力を打倒することを志向し、黒人の反逆を自伏した種類の黒人かもしれない。ジャクソンは暴露された口惜しさを感じたに違いない。アンクル・トム的要素をすて切ったはずなのに、痛みのような白人との敵対を悩むのである。

「白に対する黒」としてリングの上で、闘う彼は三方にはロープがあり、一方にはテントで暴漢が角棒で待ちうけているように一人で闘い続けなければ生きられないことを教訓づけられたジャクソンであった。黒人であることが罪となり、チャンピオンになることが罪であり、白人の女を愛したことが罪のようにつきつけられた。結論として我々に否定の理屈をひきおこさせるだけである、さらに我々は、映画製作者たちの努力を買い、意図するところの感動を覚えと、アメリカ黒人の屈辱の抑圧の歴史と、現実的にある権力の抑圧を隠蔽できないことを、最低限感じとらなければいけないであろう。

製作者たちは深淵を観客に伝えようと、実在の人物を還元し、説得的に描こうとした。それらの意図は、まだ言い残しを感じさせるものがある。

なにが言い残しを感じさせるのかジャクソンが勝利者に階段をあける表情ははれやかなものだろうか。私は白人との闘いを断念せねばならなかった黒人の苦悩を感傷のように受け取めた。感傷はただ流れるように消えるかも知れない。彼らの暗い行程をあくまで、同情のやさしさで、簡単に没入できる瞬間の戯れごととして、流れるような一時の感傷なのである。

しかし、その発しているところはジャクソンを一生取りまき、ジャクソンが属する集団を取りまいている。どのような状況でも彼にとっては一人でロープと暴漢の待ちうけている、不合理なリングの上ではやしたてられることであろう。いまだに、黒人は牢獄にとじこめられているといえよう。牢獄の中で、笑うこともがくことも敵対する人種にとっては、気がかりな快さにあたる。われわれはいつかは告発粉砕されるべき提起としてこれらの芽を意識化していこうではないか。（藤）

政治スト権確立

―法・経営学部―

経営学部自治会と法学部自治会は四月二十七日、四・二八沖縄闘争に授業ボイコット、政治スト貫徹にむけて、自治委員会総会と学生大会を開催しスト権を確立した

〈学芸案内〉

巨匠四人展　27日～5月2日まで日本橋高島屋六階画廊。入場無料

第六回国際青年美術家展　25日～5月16日まで　東京港区高輪美術館　入場無料。

現代名作洋画展即売会　池袋東武百貨店7階　27日まで。

第45回国画会展　22日～5月8日　上野公園の都美術館。

新作を捧げる演奏会　27日6時30分　日比谷公会堂　オーケストラによる古典音楽演奏。

新作名刀展　27日～5月3日まで　東京上野松坂屋デパート。

劇団「新人劇場」主催「男ヒロシよ何処へ行く」を上演　23日～29日　明大前春秋会楽ホール　午後七時　入場無料。

優柔不断

自然や人生を感情でうけとめていく中で、詩は生れる。従って、人が情感を持っているかぎり、詩はあらゆる所に在る。自分の一生をみつめ、ある感慨にうたれたり、時の流れに目を注ぐその心にも、詩はある。詩は、そう呼ばれる表現形式だけでなく、音楽や絵画の中にも、又人間の生活行動のなかにもあらわれてくる。

ここでは、作品化された詩について述べたい。

創られた詩は、日常的な次元の現実にある。しかし一方その存在は非現実の世界に属している。その詩は、それをとりまく全てから独立する。その詩に近付こうと、日常的な表現を通して、私たちは一歩ふみだす。

それが詩に向うことであり非現実からの強烈な照射に、私たちは苦痛と快感を同時に覚えることとなる。詩という作品そのものは、非現実の内に腰をすえており、ストレートに私たちの日常生活に関与することはまずないといえる。現実の彼方で、私たちの日常生活を含みこんでいるが為、私たちはその日常生活の不確かさをつきつけられることになり、憎悪をかきたてられたり、哀感を持ったりすることもある。

詩は現実に対する諸々の感情がからみあって、作品は生れてくる。そしてその非現実に成立した作品が、別の次元であざわらう時もあろう。そのように考えると、人間をやさしくみつめ、愛や希望を詩うということであっても、それが非現実の世界におかれると、日常的意味を越えるといえよう。

私たちが明晰であろうとする時、私たちは死の重みに打ちひしがれ、生を陰の部分にとおしやる。

死は一回きりのものでありそれに続くものはない。死の側から生を考えることはできない。それはまちがいであるはずだ。しかしそれは死のテーマがとりこまれてはいけないということではない。死の恐怖が私たちをとりまいているというのも、一つの世界であるはずだ。死は私たちの日常生活で常にはさみこまれてくることである。しかし、死を目的化してうたうわけにはいかない。死は詩の背後に陰影としてあるべきではないのか。

だからといって、詩は道徳的でも生産的でも健康的でもある必要はない。

詩は、現実に対してダイナマイトでもぶつけてやりたいような怒り、自己をかくあらしめたものへの復讐がふつふつにえたぎっているその感情からこそ、生れてくるべきものではないのか。

詩は主義や思想に対する、真摯な思考に先んじて、ありあふれた日常の感情の中からこそ、生れねばならない。それは非現実の中から生れるからこそ、詩は非現実の彼方から、私たちの日常感覚を裏切るのであるはずだからだ。（原）

印刷・コピー・編集のことはほなみにご相談ください。ご予算に応じてよりよいものをつくります。
穂波印刷所　東京都文京区白山5－29－4　☎（944）6028

原稿募集のお知らせ

東洋大学新聞では原稿を募集しております。論文・映評・劇評・鶏声など何でもけっこうです。なお、紙面に掲載の場合は薄謝をさしあげます。

東洋大学新聞学会

東邦音楽大学・同短大教授
永田巌著
法学
A5版 134頁
600円 〒70円
およそ社会があれば必ず法がある。人は法律制度のなかで生れ、生活し、死んでいく。本書は、難解と思われる法律を日常生活に即して解説した好著である。大学、短大教科書に最適
▼目次▲法とは何か・法学の歴史・政治思想の変遷・法と道徳・権利および義務・法の存在根拠と法の理念・法の効力・法の解釈と適用・身分関係の法・財産関係の法・取引関係の法・犯罪に関する法・行政法

表現価値の研究に独自の分野を開く――
絶賛発売中!!
色彩感覚の表現の真髄をつくユニークな業績!!
英文学に現われた色彩
東洋大学教授 文学博士　遠藤敏雄著
B6判上製
750円　〒70円
色彩の感覚が文学的表現にどのように反映されているかを明らかにするため、英文学を中心に多くの例をあげて絵画的表現の場合とを比較しながら、その特性を示したもの。
われわれの生活に密着する色彩について新たな関心を呼び起す画期的な著作である。
主な内容
Ⅰ 色彩とは何か
（1）色の意味
（2）色彩学の立場から
（3）色彩と感情
（4）色彩のシンボリズム
Ⅱ 英語と日本語の色名
Ⅲ 英文学に現われた色彩
Ⅳ 色彩表現の特性
（文学と絵画との比較）
〒170 東京都豊島区南大塚3－3－4プレスビル　プレス東京教育図書部　電話（983）8285（代表）　振替東京42449